

# 市内中学校祭シーズン到来

## 踊りや合唱 練習成果を披露

苫小牧市内の中学校が、学校祭シーズンを迎えている。9日の青翔中学校を皮切りに、ウトナイ中と山なみ分校を除く14校が今月中に実施予定。生徒たちは、練習を重ねてきた踊りや器楽演奏、合唱などを力いっぱい保護者らの前で披露している。

凌雲中学校(前田辰夫校長、232人)は、伝統のよさこいをグラウンドで披露。5月の体育祭での踊りを学年ごとに一部アレンジし、磨きの掛かったパフォーマンスを見せた。3年の寺谷仁翔(しんと)さん(15)は「練習の成果を發揮でき

た。掛け声からみんなの思いや頑張りが伝わってきた」と充実した表情で語った。

校内展示は、白老町の民族共生象徴空間(ウポポイ)での体験学習を基にアイヌ民族をモチーフに作ったモザイク画や、春夏秋冬をイメージした切り絵などが注目を集めていた。

東中学校(五十嵐昭広校長、270人)は、コロナ禍で見合わせていた合唱を3年ぶりに復活させた。1年生のクラスから順番に全校生徒の前で発表。振り付けを取り入れるなど演出にこだわるクラスもあった。

五十嵐校長は「今年は一人一人が楽しく伸びやかに歌えるよう、順位付けをあえてやめた」と話す。

吹奏楽部は人気ドラマ「今日から俺は!!」の楽曲などを演奏。教員たちがツッパリや女子生徒のコスプレでサプライズ登場し、演奏に合わせて踊ると、会場からは大喝采の拍手が起きた。3年の大澤侑羽(ゆう)さん(14)は「合唱を中学

校生活の中で経験できてよかった。先生たちも一緒に盛り上げてくれ、良い思い出になった」と笑顔を見せた。



伝統のよさこいを踊る生徒たち  
=16日、凌雲中



3年ぶりに合唱を披露する生徒たち  
=16日、東中

生徒数381人と大規模なウトナイ中学校は10月31日と11月2、4日の3日間、山なみ分校は12月10日に実施予定だ。

苫東中2年

# 働く大変さ学ぶ

苫海保や  
保育園 22力所で職業体験

苫小牧東中学校（五十嵐 昭広校長）の2年生80人は12日、「総合的な学習の時間」を利用して職業体験を行った。数人ずつのグループに分かれて苫小牧市内の幼稚園や保育園、市美術館や市立中央図書館、苫小牧海上保安署など22力所を訪れ、それぞれの仕事に理解を深めた。

将来の進路や就職について考える学習の一環。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの実施となった。

港町の苫小牧海上保安署では、生徒5人が海上保安官の業務を学んだ。空き瓶や紙に付いた指紋を白い粉を用いて採取する鑑識業務や、吸着剤や処理剤を使った油の防除作業などを体験。巡視艇とまかせ（26



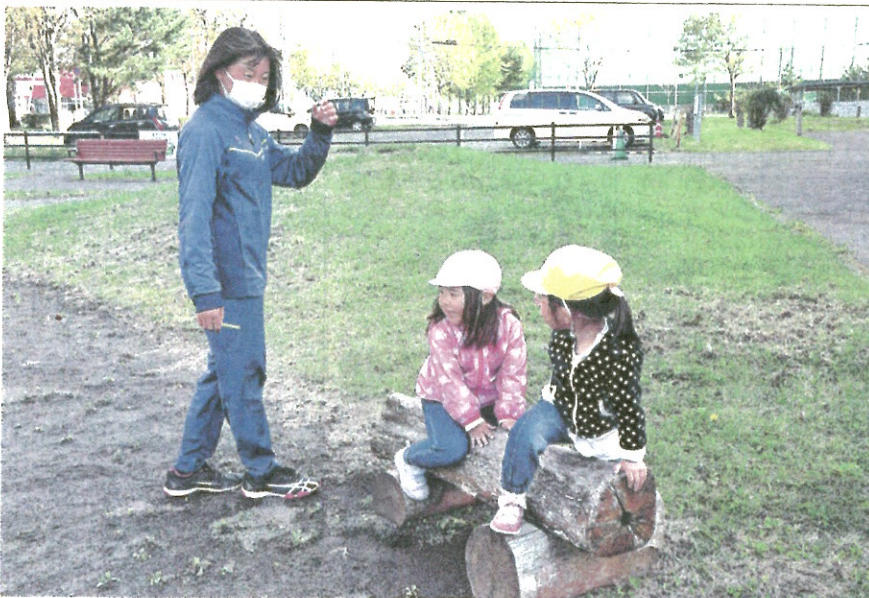
油の防除作業を体験する東中の生徒

遠藤捺月華さん（14）は

「鑑識はドラマでしか見たことがなかったもので、体験できてうれしかった」と喜び、相木空之助さん（13）は「巡視艇は想像より揺れて驚いた。いろんな業務を体験し、興味を持った」と感想を述べた。同署の中村敦次長は「進路選択の幅を広げる役に立てれば幸い。」

ぜひ海上保安官を目指してほしい」と期待した。末広町のすえひろ保育園には生徒4人が訪問。鬼ごっこやボール遊びのほか、手をつないで散歩をしたり、近くの公園で遊んだりして、園児たちと触れ合った。

蓮彩音さん（13）は「保育士になるのが夢。子どもが何を伝えたいかわからず戸惑うこともあったけど、元気に笑っているのを見てやりがいを感じた」と語った。山本侑奈ちゃん（4）は「一緒にサッカーと砂遊びをして遊んだ。中学生のお姉さんは優しくかった」と笑顔を見せた。



公園で子どもたちと遊ぶ生徒

# 全校生徒で地域清掃

## 秋の大掃除月間に合わせ3年ぶり

### 苫東中

苫小牧東中学校（五十嵐昭広校長）は18日、全校生徒270人による清掃を学校周辺で行った。クラスごとに9地域に分かれ、道路や公園に落ちているごみを拾った。

地域清掃は、秋の大掃除月間に合わせた活動で、3年ぶり。新型コロナウイルス流行前は部活動で行っていたが、今回初めて全校生徒での取り組みにした。

生徒たちは火ばさみを持ち、旭町、末広町でごみをくまなく探して拾った。市文化会館周辺を担当した1年2組（29人）は、たばこの吸い殻やハンカチ、菓子

の袋を拾い、「これは燃えるごみ？」と確認しながら、

可燃、不燃、資源ごみに分けて袋に入れていた。1年の浅利美空さん（12）は「たばこの吸い殻が多かった。全校でごみを拾うことで生徒の絆が深まり、町もきれいになってうれしい」と話した。



たばこの吸い殻を拾う生徒たち

# 中学校の授業が楽しみに 苫東中音楽教諭が若草小で授業



合唱をする児童たち

苫小牧東中学校(五十嵐昭広校長)は25日、校区内にある苫小牧若草小学校(毛利毅校長)で音楽授業を行った。同中学校の教諭が6年生53人に、中学での授業をイメージできるように、合唱やリコーダー演奏を指導した。

小中連携事業の一環で、大山紀伯教諭が指導した。合唱では歌詞の意味を考えるなど、曲に理解を深めて歌うように助言した。

リコーダー演奏では、児童らと一緒に映画「ハウルの動く城」の主題歌「世界の約束」を合奏。中学校で使用するアルトリコーダーの低い音色で曲を奏で、ソプラノリコーダーを使っている児童たちの興味を引き付けた。

高木杏寧(あんな)さん(11)は「いつもと違う雰囲気での授業は楽しかった。中学校の(音楽の)授業が待ち遠しい」と笑顔を見せた。

## 苦東中に雑巾寄贈

市民生児童委協中央地区



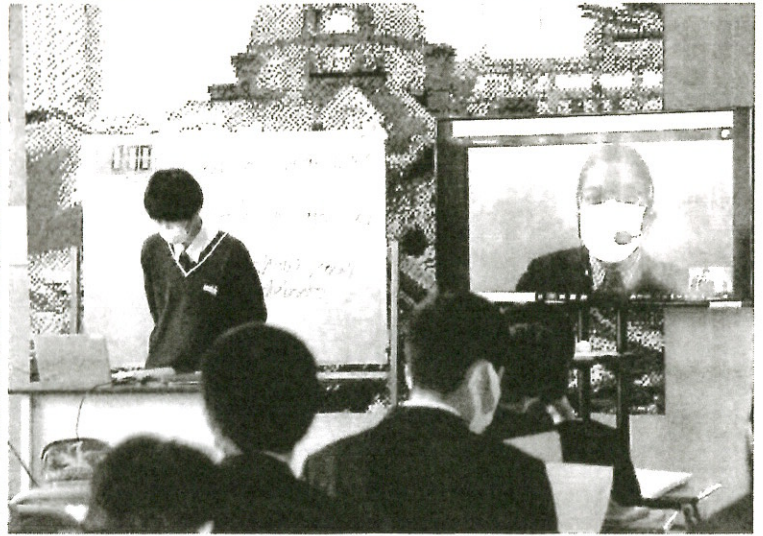
五十嵐校長（左）に雑巾を手渡す委員

苦小牧市民生委員児童委 員協議会中央地区（尾野幸子会長）は21日、苦小牧東中学校（五十嵐昭広校長）に雑巾200枚を寄贈した。委員4人が同校を訪れ、

五十嵐校長に手渡した。同地区の委員13人が15時間以上かけて手縫い。児童が絞りやすいよう薄めで、長方形にした。

尾野会長は「一針一針、心を込めて作った」と強調。五十嵐校長は「手縫いは気持ちがかもってうれし。雑巾は何枚あっても助かる」と喜んだ。校内の消毒作業や机を拭くときなどに使用するという。

同地区は毎年、同校、東小、西小へ順番に善意を届けている。



別室のALTとビデオ通話する生徒＝啓明中

苫小牧市内の中学校が、情報通信技術（ICT）を活用した授業の研究に取り組んでいる。業務用チャットアプリやタブレットを活用した内容で「新鮮で面白い」編集する力が身に付くなどと、生徒たちの反応は上々だ。

市教育委員会は授業改善組（33人）の英語の授業をの1環で、ICTを活用し、校内の全教員24人に公開した授業を推進しており、各校が独自に研究授業を行っている。

啓明中学校（荒川歩校長）は10月24日、業務用チャットアプリ「Teams（チームズ）」を活用した1年1

に立った生徒たちは画面越しに英語で樽前山やノースパーク、緑ヶ丘公園などの魅力をアピール。木村新さん（13）は「オンライン上でこのやりとりは新鮮で面白かった。またやり

# ICT活用 授業好評

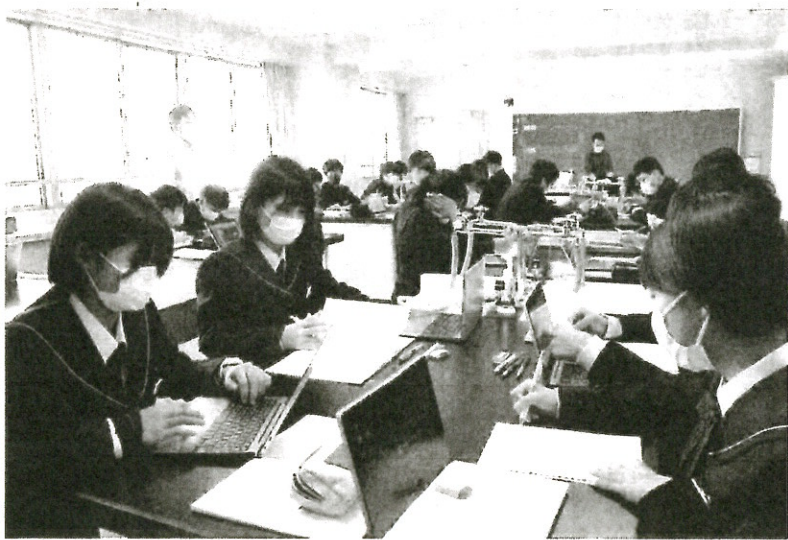
## 市内中学校 生徒「新鮮で面白い」

身に付く」といった意見が出た一方、音声の聞き取りにくさを指摘したり、接続していると同様に負担がかなり動作が重くなるといった問題も起きたが、生徒たちもあった。

苫小牧東中学校（五十嵐昭広校長）は10月25日、2年2組（38人）のタブレットを活用した理科の授業を

校内の教員らに公開。授業で習った「動物の体のつくりと働き」を小学生にも分かるよう、画像やイラストを使って説明する資料作り工夫した」と話した。

たい」と笑顔を見せた。授業後は、教員たちが市教委と胆振教育局の指導主事を交えて授業研究会を実施。オンライン上での会話により「伝える力や、とつさに英語で対応できる力が



タブレットを使って資料を作る生徒たち＝東中

## 苫東中 冬休み中の生徒へ学習会



教員のサポートを受けながら黙々と自習に励む生徒たち

宿題は早めに……

かれています。

長期休暇中の宿題や自習をサポートする目的で、毎年夏と冬に実施している。事前に受講者を募り、希望した1〜3年生の生徒24人が参加している。

26日は19人が1教室に集まり、それぞれ持参した数学や社会科などの問題集を机に広げ、黙々と学習。生徒同士教え合ったり、教員に質問したりしながら2時間半思い思いのペースで課題に取り組んでいた。

2年の藤岡侑大さん（14）は、「家だとゲームの誘惑があつてなかなか集中できないが、学校なら落ち着いて勉強できる。周りに友達、先生がいるので、質問しやすい」と語った。

苫小牧東中学校（五十嵐）で26〜28日、冬休み中の生徒を対象にした学習会が開